

JARD

小笠原DXペディション レポート



目 次

1 はじめに

2 団員名簿

3 日程

4 無線設備

5 運用方法

6 実施報告

7 おわりに

8 団員の体験記（別綴じ）

※提出を待って順次追加

1 はじめに

一般財団法人日本アマチュア無線振興協会（JAR D）は、本年8月創立25周年を迎え、その記念行事の一環として、受講者のフォロー、また、国内外のアマチュア無線家との交信を通じて、アマチュア無線の楽しさを知ってもらい、さらに、アマチュア無線の普及とともにJAR DのPRを図る目的で、小笠原村父島において、DXペディションを実施しました。

団員は、中高生と一般公募したアマチュア無線家を含め、総勢21名で構成され、主に7MHz帯、10MHz帯及び14MHz帯のSSB、CW、JT65により、日本のみならずコンディションに恵まれたヨーロッパ方面とも多数交信をすることができました。

今回DXペディションを実施した小笠原諸島は、1968年にアメリカから日本に返還されましたが、当時のDXCC判定基準から見ると、別カントリーとして存続する条件が失われることになるため、JARLならびに日本の著名なDXerなどにより、米国のARRLと大変な交渉の結果、別カントリーとしての存続を実現しました。ただし、本土と異なるプリフックスを使用することが条件であったため、JARLが郵政省に申し入れを行い、JD1のプリフックスが特別に割当られた経緯があります。

このような歴史的背景のある小笠原父島でDXペディションが実施できたことに対し、地元小笠原村、小笠原海運、無線機器の供与等をいただいた各メーカーの皆様をはじめ、ご協力をいただいた多く関係の皆様へ感謝申し上げます。

一般財団法人日本アマチュア無線振興協会 会長 有坂 芳雄（団長）

2 団員名簿

団員は、団長（有坂JARD会長）以下21名で構成し、一般参加者については、当協会の養成課程講習会修了者を対象として公募を行いました。全国から52名の応募があり、申込者の受講別、年代別、男女別、また、アマチュア無線の経歴、抱負などを考慮して7名の参加者を決定しました。その他、青少年の育成をめざす目的から、全国高等学校アマチュア無線連盟の協力を得て、4名の中高生と引率の教師1名が参加しています。

その他、顧問として日本アマチュア無線連盟の専務理事、当協会のスタッフ6名と特別参加の1名となっています。

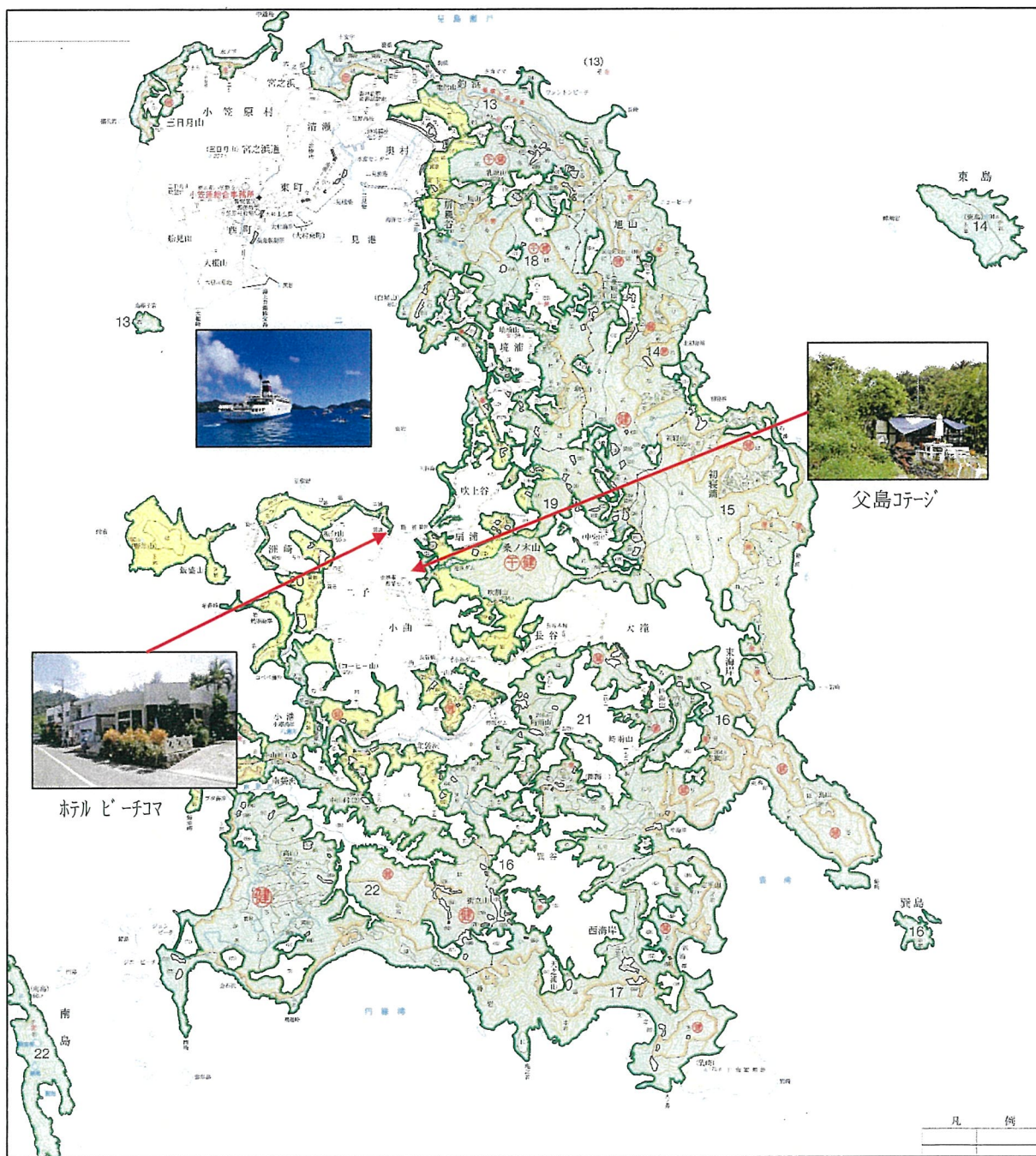
(敬称略)

	氏名	コールサイン	資格	自宅住所	備考
団長	有坂 芳雄	JA1HQQ	1アマ	神奈川県	JARD会長
顧問	玉眞 博義	JA1SLS	1アマ	東京都	JARL専務理事
一般	高橋 篤生	JE6HIB	1アマ	大阪府	
	片岩 亮人	JR2XYW	2アマ	愛知県	
	高野 成幸	JF1DKB	1アマ	埼玉県	
	書上 文彦	JR1QVM	1アマ	群馬県	
	渡瀬 隆典	JE1UFF	1アマ	東京都	
	水田 かおり	J11BTL	2アマ	茨城県	
	柳 文枝	JR0MAZ	2アマ	新潟県	
高 ア 連	甲斐 孝光	JM6CIP	1アマ	宮崎県	高校教諭
	吉川 英儀	JP3OUJ	3アマ	大阪府	灘高校1年
	秋田 秀紀	JP3PJU	3アマ	兵庫県	灘高校1年
	前島 賢太郎	J11RAA	1アマ	茨城県	茗溪学園高校2年
	柴田 紗理奈	-	3アマ	茨城県	茗溪学園中学2年
事 務 局	小杉 修身	JF1NGA	4アマ	埼玉県	第一電波工業部長
	代田 則高	JH1PVU	1アマ	神奈川県	JARD講師
	谷鹿 勝己	J11JMK	1アマ	埼玉県	JARD職員
	菅谷 正廣	JE1SBW	2総通	千葉県	JARD職員
	北井 十生	JA3IVU	1アマ	大阪府	JARD職員
	森 琴子	-	3アマ	東京都	JARD職員
特別参加	海老澤 遼夫	JA1VMP	1アマ	茨城県	水戸コミュニティ放送

3 日程

8月23日 (火)	9:30 10:15頃 11:00	集合 出港	東京港竹芝客船ターミナル待合室 出発式(待合室) ※出発式終了後乗船開始 東京港竹芝客船ターミナル ・詳細日程説明、注意事項等(船内パブリックスペース) (船中泊)
8月24日 (水)	11:00 11:30 12:00 18:00	到着 昼食 夕食	父島二見港 無線局の設置準備(参加者全員) 試験電波発射 (父島コテージ) 夕食後は自由時間
8月25日 (木)	7:00 12:00 18:00	朝食 昼食 夕食	DXペディション(父島コテージ) DXペディション(父島コテージ) 夕食後は自由時間
			グループに分けて 島内視察
8月26日 (金)	7:00 12:00 18:00	朝食 昼食 夕食	DXペディション(父島コテージ) DXペディション(父島コテージ) 夕食後は自由時間
			グループに分けて 島内視察
8月27日 (土)	7:00 12:00 15:30	朝食 昼食 出航	撤収作業、荷物整理(父島コテージ) 父島二見港 (船中泊)
8月28日 (日)	15:30	到着	・反省会等(船内パブリックスペース) 東京港竹芝客船ターミナル (到着後解散)
<p>《宿泊場所》</p> <p>○ホテルビーチコマ 東京都小笠原村父島扇浦 TEL 04998-2-2941</p> <p>○父島コテージ 東京都小笠原村父島小曲 TEL 04998-2-3038</p>			

東京都小笠原村父島 全体図



4 無線設備

(1) 無線機

- ・ TS480HX (200W機) (2アマ資格以上用)
- ・ IC7300M (50W機) (3アマ資格以上用)
- ・ FT-991S (10W機) (4アマ資格以上用)

(2) アンテナ

- ・ HB9CV (2エレ) (14M~28M)
- ・ Vダイポール (7M~50M)
- ・ Vダイポール (7M~28M)
- ・ ダイポール (7M、21M)
- ・ ダイポール (10M)
- ・ ダイポール (18M)
- ・ 八木 (4エレ) (50M)

5 運用方法

以下のとおりグループ分けを行い、コンディションの状況により効率的な運用を行った。

(1) グループ分け

(敬称略)

	氏名	資格	使用する無線機	アドバイザー
グループA (女性)	柳 文枝	2アマ	IC7300M (50W) FT991S (10W)	玉真顧問 谷鹿 (◎)
	水田 かおり	3アマ		
	柴田 紗理奈	3アマ		
	森 琴子	3アマ		
グループB (高ア連)	甲斐 孝光	1アマ	IC7300M (50W) FT991S (10W)	代田講師 菅谷 (◎)
	吉川 英儀	3アマ		
	秋田 秀紀	3アマ		
	前島 賢太郎	1アマ		
グループC (一般)	高橋 篤生	1アマ	TS480HX (200W)	小杉 北井 (◎)
	片岩 亮人	2アマ		
	高野 成幸	1アマ		
	書上 文彦	1アマ		
	渡瀬 隆典	1アマ		

(◎) 責任者、

(2) 運用時間 (目安)

	時間	TS480HX (10M、14M)	IC7300M (7M、18M)	FT991S (21M、28M、50M)
8/25	8:30~11:30	グループC	グループA	グループB
	----- 昼食 -----			
	13:30~17:30	グループC (島内視察) グループA・Bの上級資格者が 運用	グループB	グループA (島内視察)
8/26	8:30~11:30	グループC	グループA	グループB
	----- 昼食 -----			
	13:30~17:30	グループC	グループB (島内視察)	グループA

※運用周波数は、バンドコンディションにより選択する。

※夜間と早朝は、希望者により運用。

※島内視察は、希望者によりグループ単位で実施。

6 実施報告

(1) 出航

平成 28 年 8 月 23 日、前日の台風 9 号による関東地方に暴風雨も治まり、参加者が出港地である東京竹芝桟橋に集合した。出発式のあと、平成 28 年 7 月から新しく就航した「おがさわら丸」に乗船。小雨降る中 坂本専務理事をはじめ関係者の見送りを受け、竹芝桟橋を定刻どおり午前 11 時出港しました。

昼食後、船内にて小笠原 DX ペディションの説明と自己紹介を行い、団員同士の仲間意識を高めた。

「おがさわら丸」は、東京湾を出ると台風の余波を受け少し揺れたがさすがに新造船で大きな揺れもなく 24 時間後の 8 月 24 日 11 時 20 分すぎ、小笠原父島二見港に着岸しました。

(2) 無線設備の設置

父島に到着し、宿泊地のホテルと運用地の父島コテージに荷物を置き、全員が運用地である父島コテージに集合し、予め送付してあった無線機器、空中線等の荷ほどきと空中線を展張するグループと無線機器をセットするグループに分けて効率よく作業を行いました。特に青少年のメンバーは精力的に設置作業を行ってくれました。また、ベテランから空中線の組み立て方、調整方法等のアドバイスもあり、暑さも忘れ全員で協力して作業した結果、15 時ころには「試験電波」が発射できるようになりました。

(3) 運用

開局式は、JARL 本部局 JA1RL と JD1YBV 有坂団長で 7 MHz の SSB で交信を行い、本土まで電波届いていることを確認しました。その後、団員による交信を行い、日中は 7 MHz バンドで本土とのコンディションがよかったので SSB と CW で運用、すぐに全国から呼ばれパイルアップになった。中高生メンバーのオペレートは事務方の心配よそにパイルアップにひるむことなく次々にさばき、オペレート技術が高いのに驚きました。

また、女性メンバーも青少年に負けず全国から呼ばれるパイルアップをさばいていました。夜間はベテランとサポートメンバーの出番となり、主に 14 MHz 帯で CW とデジタルモードで国内外の局と交信を行いました。

デジタルモード (JT65) にも興味を持つ参加者も出て、青少年からベテランまで幅広く楽しむことができました。

(4) 世界遺産とのふれあい

その他、JD1YBV の運用の間に、グループに分けて島内観光等も行い、JAXA の小笠原追跡所の大きなアンテナや世界自然遺産の島の景色も楽しむことができました。

残念であったことは、天候がよくなかったため満天の星空は見えなかったことです。ただし数人のメンバーは、一瞬雲の切れ間から満天の星空を見との報告がありました。

(5) 帰港

帰りの便も迷走台風10号の影響で出航が危惧されましたが、予定通り8月27日15時30分父島二見港を出港し、無事日程どおり団員全員元気で帰ってくることができました。

現在、ログを整理中のため周波数別、国内外の別等交信局数の詳細は記述できませんが4,000局を超える国内外のアマチュア無線局と交信を行うことができ、交信していただいたアマチュア無線局の方に感謝いたします。

7 終わりに

小笠原DXペディション実施に当たって、八重洲無線株式会社、アイコム株式会社、株式会社JVCケンウッド、第一電波工業株式会社、コメット株式会社、アルインコ株式会社、日本アマチュア無線機器工業会事務局、ならびに日本アマチュア無線連盟等から多大なご協力をいただきました。

また、この小笠原DXペディションより、国内外のアマチュア無線家との交信を通じてアマチュア無線の普及とJARLのPRができ、大きな成果を得ることができました。